

南山大学人類学研究所

「危機と再生の人類学」公開研究会



に対応する社会と文化

— 沖縄・奄美・台湾の比較研究 —

2015年10月24日(土) 13:30~at南山大学 R棟R31

☀ 13:30 趣旨説明

☀ 13:50 玉城 毅 (奈良県立大学地域創造学部)

「家屋の変遷にみる沖縄の災害文化」

☀ 14:30 山田 浩世 (日本学術振興会特別研究員PD)

「共同体と危機対応:沖縄の伝統的相互扶助の成立背景を考える」

(休憩)

☀ 15:20 藤川 美代子 (南山大学人類学研究所)

「台風を受け止めるシマ:奄美群島における家屋の変遷と社会」

☀ 16:00 西村 一之 (日本女子大学人間社会学部)

「台湾東海岸における台風との生活:先住民アミの家屋形態の変化を通して」

(休憩)

☀ 16:50 コメント

上水流 久彦 (県立広島大学地域提携センター)

東 賢太郎 (名古屋大学大学院文学研究科)

☀ 17:20 総合討論

☀ 18:00 閉会 (どなたでも参加自由の懇親会を予定)



南山大学名古屋キャンパス

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18

地下鉄名城線八事日赤駅より徒歩約8分

地下鉄鶴舞線いりなか駅1番出口より徒歩約15分

お問い合わせ先:南山大学人類学研究所

Phone:052-832-3111(代表) Fax:052-833-6157

E-mail:ai-nu@ic.nanzan-u.ac.jp

HP:http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/JINRUIKEN/

研究会の趣旨

「朝起きてみたら、屋根と壁が二軒先の畑まで吹き飛ばされてた!」。大風が吹けば家屋は倒壊。大雨が降ればすぐに床上浸水▼かつて、台風は今よりずっと恐ろしい存在だった▼技術の進歩とともに、私たちは脆弱性の高い家屋を手放し、ちよつとやそつこのことでは動じることのない強固な家屋を手に入れた▼だが台風は今も、毎年必ず、そして何度も私たちのもとへとやって来くる。家屋もろとも引き剥がしていく地すべり。避難できずひとり取り残される高齢者▼台風が現代社会にもたらす「災害」は、時としてかつてのそれよりも甚大である▼それは、台風の規模が近年、とみに巨大化していることを示しているのか。それとも、この社会が、台風とうまく付き合うための大切な何かを失ってしまったことを示しているのか▼本研究会では、沖縄・奄美・東部台湾の事例から、各社会が常襲する台風といかに対峙してきたのかを探る。発表者たちの関心は、家屋造りに関して各地域社会に累積されてきたあまたの知恵と社会関係資本(Social Capital)の束に向けられている▼この関心は、自然現象が引き起こす生活基盤の破壊という「危機」を、人はいかに受け止め、向き合ひ、「再生」へと踏み出すことが可能なのかとの普遍的な問いにもつながるはずである。